

九条みなみそうま

「みなみそうま九条の会」会報 No.423
2025(令和7)年7月16日(水)発行

●80年前の昭和20年7月16日は、アメリカの初の原子爆弾実験に成功の日



パンプキン(かぼちゃ)
ファットマン 型

そのわずか21日後の8月6日広島に、さらに8月9日長崎に原爆が投下されます。また、あまり知られていませんが、米軍は7月20日から8月14日まで、全国30都市に訓練のため**模擬原爆**(長崎原爆と同じパンプキン型、重さ4.5トン、内部は通常火薬)49発を投下します。福島県ではいわき市に3発(死者3)、郡山市に2発(死者39)、福島市に1発(死者1名)、全国で死者400人超。今も昔もアメリカという国は不可解です!

映画『日本の青空』を観て

「興味深く見ることができました」

◆6月15日総会終了後の午後2時半から映画「日本の青空」上映会を開催。入場者は40名。

○「憲法成立の様子がよく分りました。日本政府の国務大臣松本烝治の改憲案が明治憲法と同じ保守的でGHQから却下され、その不満や腹いせで「憲法押しつけ論」が生まれたと思います。」(70代・男性)

○「総会が早く終わり上映会まで時間がありましたが、新会長の田中徳雲さんから映画の解説を

聞き、山崎健一さんからは映画ができる時の大澤豊監督のエピソードや小高神社や相馬高校でのロケの話を聞き、それで興味深く見ることができてよかった!」(70代・女性・原町区)

○「約2時間の映画でしたが、長く感じませんでした。眠くなかったですよ。」(60代・女性)

故郷原町を愛し、平和を願い戦争を記録し出版

追悼 <郷土史家・二上英朗さん>

ふたがみひでろう

二上英朗さんが2025年5月9日に72歳で逝去されました。心からの感謝とともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

英朗さんは、学生時代から原町無線塔について調査し24歳で『原町無線塔物語』を出版されます。以来長年にわたり原町を中心とした相双地域の人々の暮らしや出来事を丹念に取材され、特にアジア・太平洋戦争時の原町空襲や原町飛行場、特攻隊など昭和の戦争を、また移民や教会史、ハネダカンボス彗星などを記録としてまとめられ、次々と出版を重ねてこられました。

これらの綿密な調査や研究は切り口も鋭く、多くの著作を読むにつけ、二上さんは原町の近現代史研究の第一人者と確信しています。また地域紙の「あぶくま新報」を創刊したり、近年はホームページ「おはようドミンゴ」で発信していました。

若い人たちが二上さんの著作に触れ、この原町や相双地区の身近な戦争のことや歴史を知ってほしいと思っています。

(事務局：佐藤喜彦 山崎健一)

◇二上英朗さん◇

1953(昭28)年原町市生まれ。法政大卒。相馬農業高講師を経て、フリーランスのジャーナリストとして活躍されました。もちろん本会の会員でした。



二上英朗さんの主な著作

1977(昭52)年『原町無線塔物語』ふくしま文庫

1982(昭57)年『巨大無線塔が消える!』

1982(昭57)年『原町無線塔六十年史』私史①

1982(昭57)年『原町空襲の記録』②

1983(昭58)年『昭和史への旅』③

『秋市にサーカスが来た頃』④ 『鹿又泰の宇宙』⑥ 『朝日座、わが青春の活動写真館』⑥

1995(平7)年『遙かなり雲雀ヶ原

原町陸軍飛行場ものがたり』⑦

2003(平15)年『朝日座全記録』(共著・布川雄幸)

2009(平21)年『原町市史』11巻原町空襲の記録

2010(平22)年『もう一つの相馬移民』

2015(平27)年『原町特攻隊の群像』

2018(平30)年『三瓶町議、奮闘す

浪江町津島の記録』(監修・三瓶宝次)

ヒロシマ「動員学徒慰霊碑」の“相馬工？”とは

広島市の原爆ドームのすぐ南隣には立派な「動員学徒慰霊碑」があります。

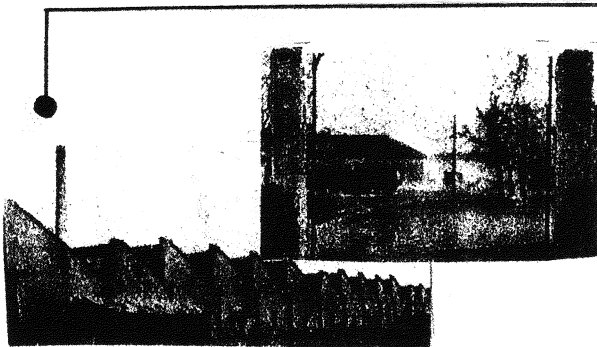
その大きな石碑には「戦没学徒出身校」として全国の県別に学校名が刻まれています。それはうっかりすると、“広島市の原爆で亡くなった動員学徒（学生と生徒）”と誤解されがちですが、実は“全国各地の工場などで動員中に亡くなった学生や生徒のいる学校名です。しかも名乗り出た学校だけのごく一部で、現実にはもっともっと多くの学校で犠牲者もたくさん出ていました。

そして“福島・相馬工”というのはどこの学校？”という疑問も湧いてきます。

“相馬工”とは戦争末期の“相馬商業（現・原町高校）”のこと

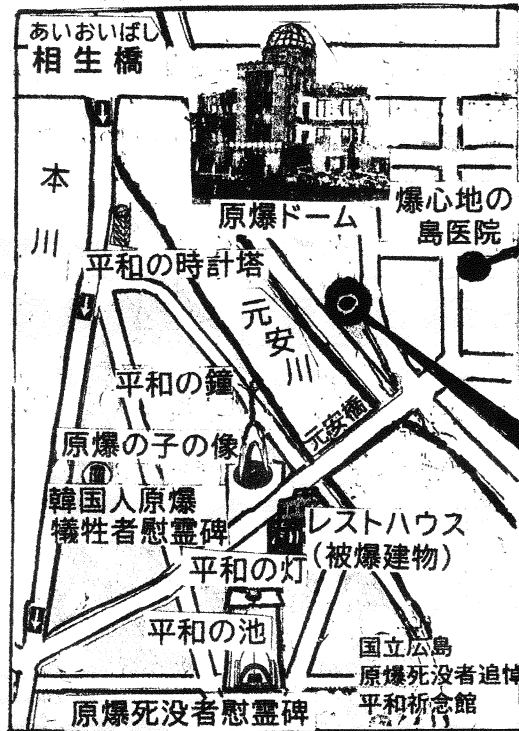
動員で死した生徒たちの慰霊碑ですが、福島県では「相馬工・若松女・安積女・白河女」だけが刻まれています。実はもっと多くの学校のたくさんの生徒が犠牲になっています。

戦没学徒出身校	
青森県師範	岩手県師範
山形県一女子	福島県相馬工
茨城県多賀工専	栃木県下野中
群馬県師範	千葉県千葉中
東京都帝国大学	日大四中
横浜一商	横浜二商
小田原中	浅野中
宮崎中	前橋工
富山県	早稲田大
武蔵野大	大妻女大
松田女	



▲原町区の国見団地のところにあった原町紡織工場。昭和20年2月16日、隣接の陸軍原町飛行場とともに空襲されますが、これが東北地方で初の空襲でした。2月19日からの硫黄島攻略に備えるための空襲でした。

＜広島市平和記念公園＞



▲「相生あいおい橋」が原爆投下の目標になった丁字型の橋。実際の爆心地は「島内科医院」。

動員学徒慰霊碑



戦争で商業の学習は不要と「工業学校」に

アジア・太平洋戦争の末期、生活のすべてが戦争に向けられ商業の学習は戦争には不要と、相馬商業学校（現原町高校）は戦時非常措置令で昭和19年4月から21年3月まで「相馬工業学校」になりました。福島県内商業学校5校も同じで、工業の先生もいないし授業もない、実習という名目で生徒を工場に動員し働かせるためでした。

● 昭和20年2月16日朝の原町空襲

動員中の工場で4年生斎藤さんが死去

「相馬工業生」の場合は、原ノ町駅の東にあった原町帝国金属工場や、国見団地にあった原町紡織工場に動員されていました。

ところが昭和20年2月16日午前8時40分、原町紡織工場は突然米軍のグラマン機など16機に空襲され、朝食中だった相馬商



（相馬工）4年生の斎藤和夫さん＜写真＞の腹部や大腿部に機銃弾が命中し、1時間後に絶命します。同時に女子挺身隊ら3名も犠牲になります。斎藤さんは3月に卒業し満鉄に就職も決まっていた、電報で双葉町から駆けつけた母は「なんうちの子だけ」と号泣します。戦争さえ、動員などなければ元気で幸せに生活できたはずですが。